

STAGE+を楽しむ(207)(HP 収載)

—モーツァルトの新発見作品—

1. 始めに

前報(206)に引き続き、STAGE+のモーツァルトの新発見作品の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は STAGE+のモーツァルトの新発見作品の演奏を選びました。

前報(205)でも配信されたライブ収録のものが、独立して配信され、同時にアルバム2件も配信されましたので、まとめて試聴します。

セレナードハ長調 KV. 648 《ガンツ・クライネ・ナハトムジーク》

コンサート

モーツァルトの新発見作品

収録日: 2024年10月7日

モーツァルトの死後 230 年以上が経って、新たな作品が再発見されました。すぐに《ガンツ・クライネ・ナハトムジーク》(「とても小さな夜の音楽」と呼ばれ、大きな話題となっています。この作品はおそらくモーツァルトが 1766 年から 1769 年にかけて 10 代の頃に作曲したもので、1780 年頃に作られたコピー譜が保存されており、ライプツィヒ市立図書館の音楽ライブラリーで発見されました。本映像はザルツブルクのモーツァルテウム音楽院で撮影された初の映像付き録音で、作曲当時モーツァルトと同じ年齢のヴァイオリニスト 2 人を含む 4 人の若い音楽家によって演奏されています。

ソリスト:

レオンハルト・バウムガルトナー (ヴァイオリン)、マルガリータ・ポチェプト (ヴァイオリン)、スヴェンヤ・ドーゼ (コントラバス)、オスカー・ヨッケル (チェンバロ)
ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

セレナードハ長調 KV. 648 《ガンツ・クライネ・ナハトムジーク》



アルバム 1:

モーツァルト：セレナードハ長調 K. 648 《ガンツ・クライネ・ナハトムジーク》
(2つのヴァイオリンと低音楽器のためのオリジナル版) (世界初録音)

レオンハルト・バウムガルトナー, マルガリータ・ポチェプト, スヴェンヤ・ドーゼ, オスカー・ヨッケル

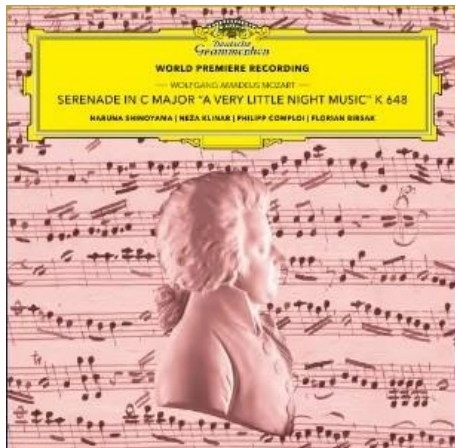


アルバム 2:

モーツァルト：セレナードハ長調 K. 648 《ガンツ・クライネ・ナハトムジーク》

(2つのヴァイオリンとチェロ、ハープシコードのための版) (世界初録音)

篠山春菜, ネジャ・クリナー, フィリップ・コンプロイ, フローリアン・ビルサク



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

映像付きのライブ収録は、前報(205)でも配信されたライブ収録のものが、独立して配信されたもので、若い演奏家が伸び伸びとフレッシュな演奏を聴かせてくれます。

アルバム1は映像付きのライブ収録と同じメンバーの演奏のアルバムにしたものようです。鮮度感は映像付きのライブ収録に若干後退しますが、フレッシュな演奏には変わりはありません。

アルバム2はアルバム1と奏者が入れかわっていますが、演奏スタイルも音質もアルバム1とよく似ています。

4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、モーツァルトの新発見作品である、《ガンツ・クライネ・ナハトムジーク》の映像付きライブ収録と二つのアルバムの若い演奏家のフレッシュな演奏を楽しむことができました。

以上